

神は、パウロの手を通して数々の目覚ましい奇跡を行われた。彼が身に着けていた手ぬぐいや前掛けを持って行って病人に当てると、病気は癒され、悪霊どもも出て行くほどであった。（使徒 19:11～12）

信仰に入った大勢の人が来て、自分たちの悪行を告白し、打ち明けた。また、魔術を行っていた多くの者も、その書物を持って来て、皆の前で焼き捨てた。その値段を合計してみると、銀貨五万枚分にもなった。このようにして、主の言葉はますます勢いよく広まり、力を増していった。（使徒 19:18～20）

マルコ福音書5章には、12年間も出血の止まらない女が、群衆に紛れ込み、後ろから主イエスの衣に触れた。すると、すぐに出血が止まり、病苦から解放された奇跡を記している。使徒言行録5章には、ペトロが通りかかると、その影にかかった病人や汚れた霊に悩んでいた人たちは、一人残らず癒されたと記している。使徒言行録の著者ルカは、パウロも同じように、身に着けていた手拭いや前掛けを、病人に当てると病人は癒され、悪霊どもは出て行くほど、目覚ましい数々の奇跡を行ったと書いている。パウロの書いた手紙には、そのようなことは書いていない。彼の手紙は、主イエスにある苦悩、喜び、希望を人間らしい言葉と生き方を真っ直ぐに書いている。著者ルカが記すパウロの奇跡は、史実ではないだろうが、圧倒的な宣教活動をするパウロへの敬意を込めて書いたのであろう。そこには、悩み苦しむ多くの人たちを、パウロの説く主イエスへの信仰によって立ち上がらせた事実が背景にあったことは確かである。

パウロが目覚ましい活躍をしているエフェソに、各地を巡り歩くユダヤ人の祈禱師たちの中には、パウロの力にあやかろうと試みて、悪霊に取りつかれている人々に対し、パウロが宣べ伝えているイエスの名によって命じる、と言う者がいた。ユダヤ人の祭司長スケワの7人の息子たちも、パウロのような働きをしたいと、同じようなことをしていた。すると悪霊は、彼らに「イエスのことは知っているし、パウロのこともよく知っている。だが、一体お前は何者だ」と言い返した。悪霊は、聖なるものには怯えるが、祈禱師たちの偽りを見抜き、強力に反抗した。悪霊に取りつかれている男が、彼らに飛びかかって押さえつけ、ひどい目に遭わせた。裸にされ、傷つけられた彼らは、家から逃げ出していった。この出来事がエフェソに住むユダヤ人やギリシア人全てに知れ渡ったので、人々は皆、恐れを抱いた。そして、主イエスの真実を認め、主イエスの名を崇めるようになった。

信仰に入った大勢の人が来て、以前自分たちが行った悪行を告白した。また、魔術を行っていた多くの者も、彼らの書物を持って来て、会衆の前で焼き捨てた。ユダヤ教は唯一、全能の神の支配を信じるので、魔術やまじないを否定する。魔術師も自分たちのごまかしを主イエスの真実の前で認めたということである。焼き捨てられた書物は、合計すると、銀貨五万枚分に相当した。これは、銀貨五万ドラクメで、1ドラクメが1日の労賃だから、約137年分の給与に当たる。膨大な書物が焼き捨てられた訳である。パウロのエフェソでの宣教は、町を揺るがすような影響を与えた。それは、自分に利益をもたらそうとする宗教の偽りが明らかにされ、悪が清算されていく浄化であった。

著者ルカは、「主の言葉はますます勢いよく広まり、力を増していった」と、宣教の力強い前進を伝えている。